

## 【国際教育研究センター】貝塚市立第五中学校 2 年生と和歌山大学の留学生との交流

貝塚市立第五中学校の 2 年生 43 名が、5 月 28 日に和歌山大学に来学し、和歌山大学の留学生 14 名と交流を行いました。

留学生は国ごとに 6 グループに分かれ、中学生達が事前に準備していた、自国の文化や生活、日本の印象などについての質問に答えました。好きなアニメや食べ物などについて留学生からも中学生に質問があり、また中学生達の持つ母国のイメージについて語り合うなど、約 40 分間の交流の中で色々な話が広がりました。



ベトナムからの留学生との交流



イランと韓国からの留学生との交流

各グループで中学生が司会をし、事前に準備してきた質問以外にも様々な質問が飛び交い、それぞれの班で会話が盛り上がりました。

「日本語は難しいですか？」という中学生からの質問に対し、インドネシアからの留学生が「日本語はとても難しいです。」と答えると、「ペラペラやん！」と笑いが起こるなど、中学生達は留学生の流暢な日本語に驚いていました。また、好きな日本料理やアニメについて聞かれると、「とてもたくさんあります。」と答えきれない留学生もおり、中学生達は日本文化の世界への広がりを感じている様子でした。



中国からの留学生との交流



ベラルーシからの留学生との交流

また、中国からの留学生 8 名に対し、「兄弟は何人いますか？」という質問があり、留学生には一人っ子が多い中、中学生にはそれぞれ兄弟が 2 人以上いるなど、中国の一人っ子政策について実感する場面もありました。ブルガリアやベラルーシからの留学生が、日本ではあまり知られていない自国の文化や行事について話をするのを、中学生達がとても熱心に聞き入りながらメモを取る姿も見られました。初めは緊張気味だった中学生達も、気軽に質問に答えてくれる留学生達と次第に打ち解け、時間が終了すると名残惜しげに会話を終える様子が伺えました。



インドネシアとブルガリアからの留学生との交流の様子

昼食後は、和歌山大学の図書館専任教員による図書館案内がありました。

まず中学生達は、専任教員から配られた「マンダラート」という表に、それぞれが話を聞いた留学生の国の印象（食べ物、民族衣装、行事など）を書き入れました。普段は特定のものをイメージしづらい国々についても、中学生達は直接留学生達から聞いた話を思い出しながら、表に書き込むことができていました。専任教員より、「大学生がレポートを書くときには、まず大きなテーマがあり、そこからこのように細かくテーマを絞り込みます。絞り込むときにも、また、作文を書き始めた後も、何度も図書館の文献を使います。」という説明がありました。中学生達は、全員が同じようにテストを受ける中学校とは異なる、大学での勉強の仕方について、少しイメージを持つことができたのではないのでしょうか。



図書館専任教員から話を聞く中学生達の様子



難しい文献を保管している部屋を見学する様子

また、専任教員の案内により、中学生達は図書館内の難しい文献が並んでいる場所や、学生達が勉強している様子、大学生が自主的に勉強するために使用する部屋などを見学しました。見学を終えた中学生達からは、「大学って広いなあ」、「すごい図書館やなあ」と感心の声がいくつも上がりました。大学内を歩いている間も、「大学ってすごい！」との驚きの声が聞こえてきました。



図書館内の壁が全面ホワイトボードになっている部屋を見学する様子

貝塚市立第五中学校2年生の皆さんにとっては、直接留学生と文化について話し合ったり、日本について共感したりすることで、留学生や海外の国々をより身近な存在として感じる機会となったのではないのでしょうか。また、図書館案内では、留学生との交流で学んだことを、大学での勉強の仕方でも振り返ることができたのではないかと思います。

2014年6月4日 国際教育研究センター